

2023 年度前田一步園財団自然環境保全活動助成事業

大雪山国立公園周縁部における特定外来生物セイヨウオオマルハナバチ防除事業実施報告

大雪山マルハナバチ市民ネットワーク美瑛部 戸島あかね

2010年に居住地美瑛で特定外来生物セイヨウオオマルハナバチ（以下セイヨウと略）のモニタリングを初めましたが、5年目の2014年、農村部では在来のエゾオオマルハナバチ（以下エゾオオと略）がよく発生しました。作業道横や畔で満開になったセイヨウタンポポを訪れる在外マルハナバチ達を見て、「この状況であれば、セイヨウを捕獲してやるとエゾオオが住みやすくなるのでは」と気合が入り通勤前後や休日に十勝岳のふもとで粘ってみました。余暇活動のため毎日とはいかず、開花期もあつという間に終わってしまい十分な取組捕獲量とはなりませんでしたが、同じ場所で続けて捕獲するとセイヨウの割合が減るという開花期間内での結果を得られました。つまり“高密度発生場所で捕獲すれば高標高地への侵入について時間稼ぎできるのではないか”との“希望”でした。それ以来、いつか納得のいくまで捕獲に専念してみたいとかねがね願いながら、隙間時間の活動を曲がりなりに続けていました。今年度当助成事業へチャレンジし、身辺の状況が許したこともあって、初めて専業に近い形で取り組むことができました。越冬女王は外来在来共に大量発生し、またとない環境下での実施となりました。

まず第一にやっておきたかったのは、外来種防除事業としての形を付けること。捕獲と並行しながら、旺盛に繁茂し蜜花粉を提供している外来植物の管理にも取り組みました。

結果として2023年シーズンのセイヨウ捕獲数は3267頭（うち女王は2508頭）。これまでの年捕獲量の約10倍前後になります。ひとえに天気やマルハナバチ状況に合わせて動けたことに尽きます。加えて予算をいただいたことで非農薬系殺虫剤「凍結ジェット」を使用でき捕獲時間の短縮効果もありました。捕獲の集中期はやはり5月～6月上旬の越冬女王の大量捕獲で、この時期だけで2294頭の女王の捕獲になりました。



下表：2023年月別セイヨウの捕獲数（上段：女王捕獲数／下段：総捕獲数）

4月上/下旬		5月上/下旬		6月上/下旬		7月上/下旬		8月上/下旬		9月上/下旬		10月上/下旬		11月
5	20	1071	1033	190	6	6	5	0	1	0	6	23	127	15
/5	/20	/1087	/1136	/222	/8	/17	/36	/10	/1	/1	/24	/130	/476	/94

植生管理については特定外来オオハンゴンソウを中心に芽生えを見分け春の根堀から始めました。マルハナバチのモニタリング捕獲を優先したことから防除エリアを絞り込まず、一班程度の人員と手法では有効管理しきれませんでした。山岳道路付近の侵入初期の防除は有効で継続は必要と思います。

また申請時に明記できなかった高山帯のモニタリングですが、6月下旬から試行し9月上旬までに十勝岳連峰へ20回余りの日帰り登山を実施。山岳道路周辺や樹林帯の切れた山腹の登山道で、女王やワーカーの侵入を数回確認しました。これも專業化により当事業参加メンバーのご都合や、別隊に参加しながらの連絡、ルート探索等の準備が可能になり、お天気と活動日程を調整できたことによります。

望外の結果として、温暖傾向へのマルハナバチの反応を継続観察できました。8月は史上初の猛暑となり高山帯でも30℃以上になるなか、終日歩いて0頭～数頭の結果。山麓や丘陵凸地のオオハンゴンソウは開花しましたが、日中の熱波で訪花昆虫類が全く見られない日時もありました。

また例年 10 月には秋晴に冠雪を望む美瑛ですが、今年はいつまでも白くならない山々を背景に、ガーデンや河川敷の花資源にセイヨウが集中し、10月下旬にはカーストが複雑に発達する現象が見られました。2010 年当初から観察できている白金では、終見のマルハナバチ種別が在来からセイヨウに置き換わっていますが(2019 年以降)、2023 年は終見が1か月程度遅延し11月7日(セイヨウワーカー1頭目視ヒレハリソウ訪花)となりました。

シーズンを終えて振り返ると、この外来種防除事業は、人間社会の業態としては「農業」に一番近いのではないかと思います。専業で取り組むコアメンバーに加え、繁忙期は手が足りなくなり助人が要ること、適期を逃すと指数的に大変になってしまうこと、天気次第の野外作業であることなどからですが、考えてみれば生き物相手の仕事なら共通事項かもしれません。



ここ上川管内でのセイヨウに関する取組は、東大の研究等と前後して 2005 年ごろからと市民対象の講演実習などで諸先輩に教わってきました。従事者バスターズの登録など、北海道組織の取組もあり普及したと思います。私共市民ネットも他団体個人や自治体、環境省等々関係者に案内し、情報交換会を例年 12 月に行うなど、次年へ継続するための連携と情報共有に微力を尽くしているところです。先週 3 月 3 日には NPO アースウインド主催講演会「大雪山モニタリングサイト」についての取組結果を受講したところで、今年も高山帯にとりくむならどのように、と調整点改善点がいくつか浮かんできます。

もう春になります。「専業でやってみた翌年の結果確認はマストでしょう」と指導が出ました。2024 年、マルハナバチはどう出て現地はどうなるのでしょうか。防除側としては、私共限られたボランティアメンバーだけでは外来マルハナの防除体制として不十分で力が及ばないことがわかりました。換言すれば時期的場所的にできることとその規模ははっきりしました。これも活動を支えて下さった前田一步園財団の皆様、参加メンバーあってのことと深謝し、関係者の皆様のご指導ご鞭撻をお願いします。

またこの場をお借りして、この地で取り組ませていただける環境と現地関係の皆様には厚くお礼申し上げます。
(2024 年 3 月 16 日)

